

新聞活用し企業研究

就活講座 記者が読み方説明



興味を持った記事についてプレゼンする学生＝福井市のアオッサ内の「Fスクエア キャリアナビセンター」

人の班になり「まわしよみ新聞」と題したワークショップに挑戦。全国の地方紙を読んで気になった記事プレゼンテーションする取り組みで、西日本豪雨災害や死刑制度に関する記事などを題材に活発に意見交換した。

参加者の1人は、AI(人工知能)を活用したバスの効率運行システム開発の記事に着目し「高齢化社会の問題解決のために、新しい技術をどのように使えるか」という視点を持ちたい」と発表した。

就職活動に新聞を活用してもらおうと、県の相談窓口「Fスクエア キャリアナビセンター」は、「しごとカフェ」「新聞de業界・企業研究」を、福井市のアオッサ内の同センターで開いた。大学3、4年生を中心に14人が参加し、地元企業の情報や行政の取り組みが豊富に紹介されている新聞の特性を学んだ。

福井新聞社みんなの新聞部の藪内弘昌部長が講師を務めた。経済面に掲載されている企業の特集記事や決算、人事異動の記事を見せながら「各企業のホームページでも情報は確認できるが、分かりやすくまとめている新聞を、業界や企業研究の参考にしてほしい」と強調。超小型衛星「県民衛星」の開発プロジェクトに関する記事にも触れ、県内には高い技術力を持つ企業があることを紹介した。

この後、参加者は4、5人の班になり「まわしよみ新聞」と題したワークショップに挑戦。全国の地方紙を読んで気になった記事プレゼンテーションする取り組みで、西日本豪雨災害や死刑制度に関する記事などを題材に活発に意見交換した。

参加者の1人は、AI(人工知能)を活用したバスの効率運行システム開発の記事に着目し「高齢化社会の問題解決のために、新しい技術をどのように使えるか」という視点を持ちたい」と発表した。

就活に役立つコンテンツが満載の電子新聞「福井新聞D刊」の活用法を紹介する講座もあった。参加者からは「リード文だけなら短い時間で読めると分かり、新聞を読んでもよつと思っただ」「グループワークで他人の意見も聞けて、ためになった」といった感想があった。

(宇野和宏)